

## 市民活動のマンネリ化をどう変革させるか

エコロジーライフ研究会会長 米倉直直

12年前の当研究会発足当時は気力・体力ともに充実していた会員も高齢者・後期高齢者の仲間入りし、個々の活動が衰えてきたことは否めない。こうした背景に加えて市民活動助成金も先細り、このままでは市民活動日本一を標榜した市の方針に沿う活動がおぼつかなくなってきた。まさにボランティア活動の危機の時代である。

このような状況の中でこれからのボランティア活動を持続発展させていくために、特に基本的に重要なことを考えてみたい。

## ① 情報交換の場(集会所)の必要

会報・情報紙などによる情報の交換伝達は大切なことであるが、その作成まどめは誰がやるかは重要な問題である。また、紙面・ビデオなどの媒体を通してだけでなく直接お茶を飲みながら話し合う場(気軽な集会所)の存在が必要である。

## ② 自主財源の確保

知識・資質の向上を図るための研修会・講演会・見学会などは、会の存続があつてこそできることである。このような活動の資金をどのようにして自主的に生み出すかは、会活動

の継続発展にとってきわめて重要な課題である。当研究会ではモデル圃場で会員の

協力によつて生産した農産物を販売して資金の一部を確保している。

## ③ 行政との連携

市民活動日本一を目指すためには、行政担当者との意識の共有、協働精神の醸成を持った上での相互の連携が大切である。そのためには現状の認識と将来への方向性、それに向かつての年次の具体策等について行政担当者と活動団体と十分話し合い、会の活動事業も重要な行政課題の一つとしての意識統一・共有感をもつことが重要である。この過程においては、相互の勉強・資質の向上が必要で、行政側に求められることはまず担当者が最低3年間以上変わらず、市民を指導できる識見を持つことである。一方市民リーダーには行政担当者に劣らない広い知識と洞察力、先見の明を育むことが求められる。

## 光陽の里収穫祭と雨

光陽の里楽農会 松井道夫

前日、「収穫祭が雨になりそうだからテントを貸してくれる所どこか知らない？」と野田さんから電話がはいった。また別の会員さんから「雨になりそうだけど、どうするの、中止があるの？」

と問い合わせが入る。「野田さんはテントの手配している、中止の頭はないみたい」。忙しい中で明日への覚悟を決めた。朝、曇り空の中、餅つき準備のため薪の手配に山へ行き、作業中にポツリときだした。なんとか保つてくれ、と祈りながら、会場で竈のたき付けに入る、と次から次へと電話で問い合わせ、**「今、火をたいてます。テントは張ったよ、雨は逃げていくからやりますよ」**、と「やりますか？」の声の前に電話で参加を呼びかける忙しさ、雨が降り出したから時間を前倒しにして、出荷された野菜をどんどん売り出した。柴さんの妹さんが挨拶に来た。「何で本人が来ないの？晴れ女が来ないから……」。そのうちに花の村の藤本さんが

「燻製」を持ってきた、昨日からの仕込みで出来た「ゆで卵、サンマ、猪」の三品。置くや否や買い手が殺到、またたく間に売り切れた。野菜の出品も少なめで早々と売り切れ、恒例のビンゴ大会も盛り上がった。(ビンゴの景品を提供して下さった皆さん、ありがとうございます)おかげさまで大いに盛り上がりました。片付けに入ろうとして、時計を見たら12時30分、早すぎる！と思ったのだが、天の神はこちらのビンゴ大会無事終了を見届けたかのように雨が降り出した。農作業者にとっては、雨は「恵みの雨」でもある。敵視することなく、「少し待って」の願は聞き届けられたのか？(雨の降り出

したとき、「あの雲を少し横へずらしましょう、雲をじつと見て、「横へ」と祈る、と祈りを掛けていたのは私と?)

なんとか収穫祭は形を保つ事が出来ました。なお、楽農会会計からクーポン券払い戻し58,100円、ビンゴ景品9,000円の支出がありました。

## 三千三百人の植樹祭に参加

10月27日、掛川・袋井を統合する中東遠総合医療センター植樹祭が両市の市民3300人が参加して、病院の建設予定地で常緑広葉樹を中心とした27種類23000本の苗を植えた。これは「希望の森づくり」へ取り組む掛川時の寿の森倶楽部が主導し、6月の沿岸部での植樹に続いて行われた、従来の森づくりとは根本的に思想が異なり、低木、中木、高木を無作為に混植、しかも密に植え、自然に育つ手入れ不要の森を目指したものである。

8月に村尾さんの話を聞いて目から鱗だった私にとっては、楽しい植林運動で、今後の動静に注目したいと思つている。林業は環境生態学であると実感した運動でした。(松井道夫)

## 光陽の里事務局からお知らせ

光陽の里は本年度行事を無事に終る事が出来ました。年末の契約更新に向けて、会員各位に契約書を送付しました。本年末に出来た空き農地を整理して新たなふれあい農園を造成する計画を練っています。